



中津市監査委員告示第 12 号

地方自治法第 199 条第 7 項の規定により、令和 2 年度財政支援団体監査の結果を別紙のとおり公表する。

令和 2 年 5 月 26 日

中津市監査委員 永 松 末 利

中津市監査委員 林 秀 明

財政援助団体監査結果報告書

1. 監査の対象及び監査の期間

監査の対象		監査の期間
耶馬溪ダムトーイングスポーツ 全国大会現地実行委員会	左記の財政援助団体が令和元年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）に本市から交付を受けた補助金に係る出納その他の事務	令和2年5月1日～令和2年5月26日
なかつ6次産業創生推進協議会		

2. 監査を実施した監査委員

永松 末利 ・ 林 秀明

3. 監査の方法

監査にあたっては、監査の対象の財政援助団体及び当該補助金を所管する部課に係る出納その他の事務の執行が適正に行われているかどうかについて、書面監査及び関係者からの説明聴取により実施した。

4. 監査の着眼点

補助金の交付目的及び補助対象事業の内容は明確か、交付額及びその時期、方法、手続きは適正であるか、財政援助団体への指導監査は適切に行われているか、また、財政援助団体における支出の会計経理は適正か、領収書等の証拠書類の整備は適切か、補助事業が計画的且つ、交付条件に従って実施され、十分な効果が挙げられているか等に重点をおき監査を実施した。

5. 監査の結果

財政的援助に係る出納その他事務の執行について監査した結果は、次のとおりである。

各事業は公益性、公平性、有効性があり事業計画及び補助金交付条件に沿って実施され、公益事業として一定の効果を示し、概ね適正に事業の執行及び事務処理が行われていた。

しかしながら、一部の事務に改善を要する事項が見受けられたので、以下の指摘事項について十分検討し、措置状況の具体的結果を令和2年6月25日（木）までに所管課より文書にて報告されたい。

また、そのほか口頭で指導した事項についても十分検討し、改善に努められたい。

なお、今回の監査は、財政援助団体を対象に行ったものではあるが、所管する担当課の指導体制等に不十分な点が見受けられたので、事務の改善を要望するとともに、あわせて交付団体への指導の強化を図られ、今後の事務処理に万全を期されたい。

【耶馬溪ダムトーイングスポーツ全国大会現地実行委員会】

(1) 補助金等名 耶馬溪水上スポーツ施設活用事業補助金

(2) 所管部局・課 耶馬溪支所 地域振興課

(3) 財政援助の目的

当補助金は、耶馬溪水上スポーツ施設を活用したトーイングスポーツの全国大会及び国際親善大会の開催に要する経費を市が補助することにより、耶馬溪水上スポーツ施設の知名度を高め、その活用の促進及び地域振興を図ることを目的としている。

(4) 事業の概要

I. 事業費 3,274,541円

II. 事業内容

・「日韓中親善水上スキー・ウェイクボード選手権大会」及び「第19回ウエストジャパンオープンウォータースキートーナメント大会」を同時開催。

・「アジアプロツアー2019ウェイクシリーズ最終戦in耶馬溪」を一般社団法人 日本ウェイクボード協会と共同開催。

また、大会中に撮影された写真のコンテスト及び写真コンテスト応募作品巡回展（市内3ヶ所）を行い地域の振興及び観光振興を図った。

（来場者数 日韓中親善水上スキー・ウェイクボード大会 約600人、アジアプロツアー 来場者数 約780人）

III. 財政援助額 2,635,244円

(5) 監査の結果

I. 団体に対する事項

（指摘事項）

①実行委員会の経理規程等は、中津市契約規則や会計事務規則等を準用しているが、10万円以上の委託料、賃借料、物品購入、印刷製本について、複数者の見積り執行や請書や契約書の作成をしておらず、1者見積りの執行であった。

中津市契約規則等を順守し、数者の見積り執行による経費節減など見直しを求める。

②日韓中親善大会の賞品・副賞品の予算100,000円に対し決算169,982円、ウエストジャパン賞品・副賞品の予算130,000円に対し決算202,915円といずれも予算額を上回っている。

写真コンテストについては、応募総数66点（応募者17名）に対し15名に賞品を贈呈している。

予算を上回る賞品の内容や必要な数量の見直しを求める。

③日韓中親善・ウエストジャパンのパンフレットに8社の広告が掲載されているが、広告料や協賛金等の収入はない。

パンフレット作成費が支出されていることから、広告料や協賛金等の徴収を検討し、大会活性化のための新たな事業の取組を求める。

④大会の人件費に関して、個人に支払われる謝礼等について、所得税の源泉徴収を行っていなかった。

所得税法や中津市会計事務規則等を順守し、適切な会計事務を求める。

II. 所管課に対する事項 (指摘事項)

①アジアプロツアーについて、主催は現地実行委員会と日本ウエイクボード協会が共同で行っている。

プロとアマチュア選手が混在して出場する大会となっているが、補助金について、例えば、プロ選手の経費は補助対象外とし、アマチュア選手のみを経費を補助対象とするなど、日本ウエイクボード協会と収入や経費の負担について協議し、負担割合など明確化を図ることを求める。

②この補助金の目的は、耶馬溪水上スポーツ施設の知名度を高め、施設活用の促進を図ることである。施設も整備され全国規模の大会が毎年のように行われるなど、水上スポーツ団体などからの知名度は十分高まり、その活用も図られ、補助金の目的も達成されているのではないかと考えられる。

日韓中親善大会のような国際大会を補助対象外にすることは難しいにしても、プロが出場する大会から、将来的な補助金や企業協賛金等についての検討を求める。

【なかつ6次産業創生推進協議会】

(1) 補助金等名 なかつ6次産業創生推進協議会運営補助金

(2) 所管部局・課 商工農林水産部 農政振興課

(3) 財政援助の目的

当補助金は、中津市における総合型産業創生に向けて、各種産業間、地域間のネットワークを構築し、6次産業を推進するための商品開発、起業支援、販路拡大、普及促進活動などに要する経費を市が補助することにより、中津市のブランド商品づくりを推進し、6次産業の創生による地域経済の活性化を図ることを目的としている。

(4) 事業の概要

I. 事業費 9,308,535円

II. 事業内容

なかつ6次産業推奨品「なかつファイブスターストーリー」について、5品目の新規認証を行い、認証数が23品目（15事業者）となった。

また、「アドバイザー派遣による地域資源を活用した新商品開発」のほか、「食材フェアや物産フェア開催による販売促進」、「インターネットショッピングモール『なかつ燦燦市場』の運営委託による販売チャンネル整備」、「6次産業推奨品のパンフレットや販促グッズを作成し商品をPR」、「アンテナショップでの販売や商談会での販路開拓」などを実施し、6次産業化の推進による地域の活性化を図った。

III. 財政援助額 8,861,115円

(5) 監査の結果

I. 団体に対する事項

(指摘事項)

① イベント参加に伴う旅費の電車代について、一部過大な支出となっているため、補助金の返還を求める。

② アドバイザー委託料の請求書日付4/17と5/24の2回の業務の請求書を5/28付けで受領し、2回分を合わせて6/5に支出している。

また、9/11、9/17、9/18の業務については、2/3に支出していた。

支出事務について、業務完了確認後、すみやかに請求書を受領し、支出するよう求める。

③ 4/17のアドバイザー委託業務の報告書の内容は、今年度の支援方針や年間活動計画等の2時間程度の打ち合わせであるが、業務1回分50,000円の支出を行っている。

短時間程度の打ち合わせであれば、半日価格30,000円などを導入するなど経費節減の検討を求める。

④ なかつ燦燦市場のホームページについて、中津市ホームページのトップページにバナーはなく、農政振興課の6次産業の取り組みについて紹介するページの下段の記事に「なかつ燦燦市場」が紹介されており、わかりにくく、目立っていない。

利用者の増加を促すため、ホームページ上でわかりやすくなるよう検討を求める。

⑤洞門パティオとJAおおいたの売上は、平成29年度から平成30年度にかけて増加しているにもかかわらず、なかつ燦燦市場の売上については、平成29年を頂点に下降している。

新型コロナウイルス感染症の影響で、インターネット販売が重要な販売手段となっている。今後、売上減少の要因を分析し、利用者の増加を促すための対策等を求める。

II. 所管課に対する事項

(指摘事項)

①平成30年度予算額13,000,000円に対し補助金実績額10,162,447円、令和元年度予算額12,000,000円に対し補助金実績額8,861,115円である。

補助金の予算額については、補助金実績額に伴う減額予算の要求を求める。

②なかつ安心・元気・未来プランでは、なかつ六次産業推奨品の認証の目標値を50品目とし、令和元年度末で23品目の認証が行えている。

今後も、認証を増やすだけでなく、認証後の新たな販路拡大や情報発信に努め、生産者の所得向上や地域活性化につながる検討を求める。